

事例発表 地域連携について：町田市立図書館との協力貸出を中心に

著者	沢里 冬子
雑誌名	平成19年度 第93回 全国図書館大会 東京大会要綱 ： つなげよう未来へ、開こう現在（いま）を 図書館は力：文化が集まる、情報が集まる、人が集まる
ページ	38-40
発行年	2007-10-29
URL	http://id.nii.ac.jp/1073/00003777/

■事例発表

地域連携について

一町田市立図書館との協力貸出を中心に

沢里 冬子

(和光大学附属梅根記念図書館事務長)

1. はじめに

このたび“地域連携について 一町田市立図書館との協力貸出を中心に”というテーマで、ここ数年間の和光大学附属梅根記念図書館の、特に公共図書館との連携を進めてきたいくつかの活動について報告させていただきます。

和光大学は、1966年に創立され、現在では現代人間学部、表現学部、経済経営学部の3学部7学科と大学院、学生数約3500名、教職員数約170名の大学です。

小さな実験大学として、“小さくても本物の光を放つダイヤモンドのような大学”を目指して様々な試みを行い、また開かれた大学としてもいろいろな活動を展開してきています。そのような大学の図書館として、開学当初から地域開放の制度はないものの近隣住民の方々に図書館を利用していただいたり、まだ小規模の環境にあった1972年から、視覚障がい学生へのサービスとして対面朗読を実施するなど、必要、環境、状況に応じてできるところから始めるといったやり方で、さまざまな活動を進めてきたといえます。

今回のテーマ、“地域連携について 一町田市立図書館との協力貸出しを中心に”の報告に入る前に、“町田市立図書館との協力貸出の締結”に至るまでの、和光大学附属梅根記念図書館の地域との連携の歩みについて、少し触れたいと思います。

2. 地域連携への歩み

2.1 図書館における、一般開放

制度としての一般開放の最初の一步は、卒業生に対する貸出サービスでした。

1984年4月に、新独立図書館としての和光大学

附属梅根記念図書館が開館し、施設設備の充実に伴い実現しました。

1985年には、一般の方むけに、館内閲覧と複写を登録制でご利用いただくサービスをスタートしました。

その後大学の実施する公開講座や、川崎市との提携で行われた講座の受講生そして、現在に続く“和光大学オープンカレッジばいであ”受講生への貸出を含む図書館利用サービスへと広がりました。

そして2003年4月からは一般利用者への貸出サービスを開始しました。貸出を含む一般利用者サービスは登録制で、高校生、大学生、一般の方を対象として、3冊2週間の貸出を行っています。利用者はおもに町田市民と川崎市民ですが、その他の市の方々も特に限定せずにご利用いただいています。利用状況は2003年以降年々増となっており、2006年度は、登録者数230名、年間貸出冊数1,395冊、卒業生、講座生を合わせると4,354冊となりました。貸出サービス実施当初は、本学学生との利用競合を心配する声もありましたが、今のところそのようなことはなく、実施できており、この間の利用状況から貸出冊数を5冊にすることを検討しています。

2.2 図書館の新たな取り組み

次に図書館活動の変化について触れておきたいと思います。

特に、1995年以降の学部改編に伴って、学生や教員の利用状況に変化が現れてきました。学生の利用が伸びない、一方資料要求の内容や幅が大きく広がるなど、今までの図書館サービスの在り方や、資料収集、蔵書構成についても考え直さなければならないような状況が現れてきました。そんな中で、2004年5月に当時の館長から、学内での図書館の存在意義をたかめ、ひいては社会的に評価される図書館にしていこうという“これからの和光大学図書館に向けての提案”が出されました。そのいくつかの提案のうちの一つの柱が、“連携”ということでした。館長いわく、和光の図書館は来て使ってみると

なかなかいい図書館だが、自己満足に終わっていないか。この問いかけは私たち図書館員にとって新たな一歩を踏み出す大きなきっかけになりました。

本を読まなくなったといわれる学生たちが、読書習慣を身につけるために全力を尽くすこと、他の図書館、特に公共図書館から学ぼう、学生はもちろん、教員や学内の組織との連携を積極的に進めようということがその提案の大きな柱でもあり、ここから今日の報告へとつながる活動がはじまりました。

2.3 公共図書館との連携へ

公共図書館の活動から学ぼうということで、2004年の夏と秋に浦安市立図書館と町田市立図書館を訪問し、その後館長をお招きして、“めざめよ！大学図書館”という連続企画講演会を実施し、交流を深めることができました。

1回目は、大学図書館との連携を実践している浦安市立図書館を見学し、お話をお聞きしました。浦安市立図書館と明海大学図書館との連携の特徴は、市が大学図書館に資料提供や、財政面の補助を行い、それを市民開放しているところにある、市民は、大学図書館で図書・雑誌の閲覧、図書の貸出、複写サービス、閲覧席などの利用、インターネットによる情報検索、視聴覚資料の閲覧ができるという幅の広いものであり、大学生は、浦安市立図書館の資料を大学図書館のカウンターで借りることができるというものでした。また浦安市立図書館では、司書が浦安に関する様々な資料の収集や作成をしていること、行政や議会へのサービスを日常的に身近なサービスとして実施していることなど多くのことを学ぶことができました。その後の、浦安市立図書館長をお招きしての講演会は、先進的な公共図書館の実践の報告を聞くことができ、現代日本における図書館の使命や、利用者サービスに徹する姿、またそれらを遂行するための基盤づくりにいたるまで、館種を超えて参考にできるヒントに満ちていました。

2回目は、同市内の町田市立図書館の見学、続いて講演会を行いました。

和光大学は障がいのある学生の受け入れや、図書館における対面朗読サービスなどに取り組んでいましたが、町田市立図書館は、重点施策として、図書館の利用に障がいがある人に対するサービスや、学校図書館及び学校との連携、市内の大学図書館との連携、地域資料の充実等に積極的に取り組んでおり、同じ地域の異なる館種の図書館として互いに理解を深めることができました。

3. 町田市立図書館との協力貸出協定の締結へ

和光大学図書館では、特に2003年度以降、一般開放の状況や、公共図書館との交流をへて、大学図書館と公共図書館との間でどのような協力関係を築くことができるのか、具体的に何ができるのかを考え始めました。

和光大学は町田市にあります、市内からはずれ川崎市と町田市の境界にあり、学生が市立図書館を利用するためには、電車で2駅+徒歩10分ほどかかります。また近隣の町田市鶴川地域は、大きな団地もあり住民も多い地域です。そこにある市立図書館の分館は、利用はものすごく多い図書館ですが、施設的には小規模で、閲覧座席等はほとんどない状況です。こういった両館の状況から協力のメリットも考えられました。また町田市立図書館の今までの市内他大学との連携の経験や、大学の在学、在勤者に対しても市民として積極的にサービスしようという姿勢、都立図書館再編問題や都立多摩図書館が廃棄した5万冊の資料について、多摩地域で共同保存・利用を考えるなどの取り組みや、2005年には和光大学図書館が多摩社会教育会館図書室の所蔵していた多摩地域の社会教育関係資料を譲渡いただいたことなど、資料の共同保存・共同利用にも目を向け始めたことなども、連携を進める契機になっていったと思います。

2006年になって、数度の協議を重ね、2006年9月15日に、「和光大学附属梅根記念図書館と町田市立図書館における協力貸出に関する確認

書」を締結し、協力貸出がスタートしました。

概要は、図書資料の貸出、借り受け期間35日間、大学図書館所蔵資料の複写サービス、資料の搬送は町田市立図書館が週1回のメールカーの運行を行う、ということになりました。

締結後1年を経た現在の利用状況は、市立図書館からの借受>市立図書館への貸出といった状況です。この協力貸出しにおいては、双方の利用者が館外貸出で利用できることがとても好評です。また和光大学図書館の一般利用者のうち町田市民の登録数は、前年度に比べて倍増しました。協定のもう一つの成果として、共催で、和光大学を会場に市民向け図書館利用ガイダンス、“大学図書館を使ってみよう！ おとなのための図書館活用法—図書館を賢く使うためのレファレンス講座—”の開催、日曜開館日数の増加など、さまざまな条件の中での連携ですが、一步一步進んできています。

また、和光大学は川崎市と隣接しており、現在では川崎市との交流を行い、協力・連携を模索しているところです。

こうした公共図書館との経験を通して、図書館内でも、今までと違った視点から大学図書館を見つめなおし、大学図書館での学生、教員、職員へのサービスも変わり始めています。教員との連携、研究所とのシンポジウムの共催、他課と連携した学生サービスの実施など、一歩外へ踏み出したサービスが広がりつつあります。

地域との連携を通して、相互に充実したサービスが展開できることを期待しています。